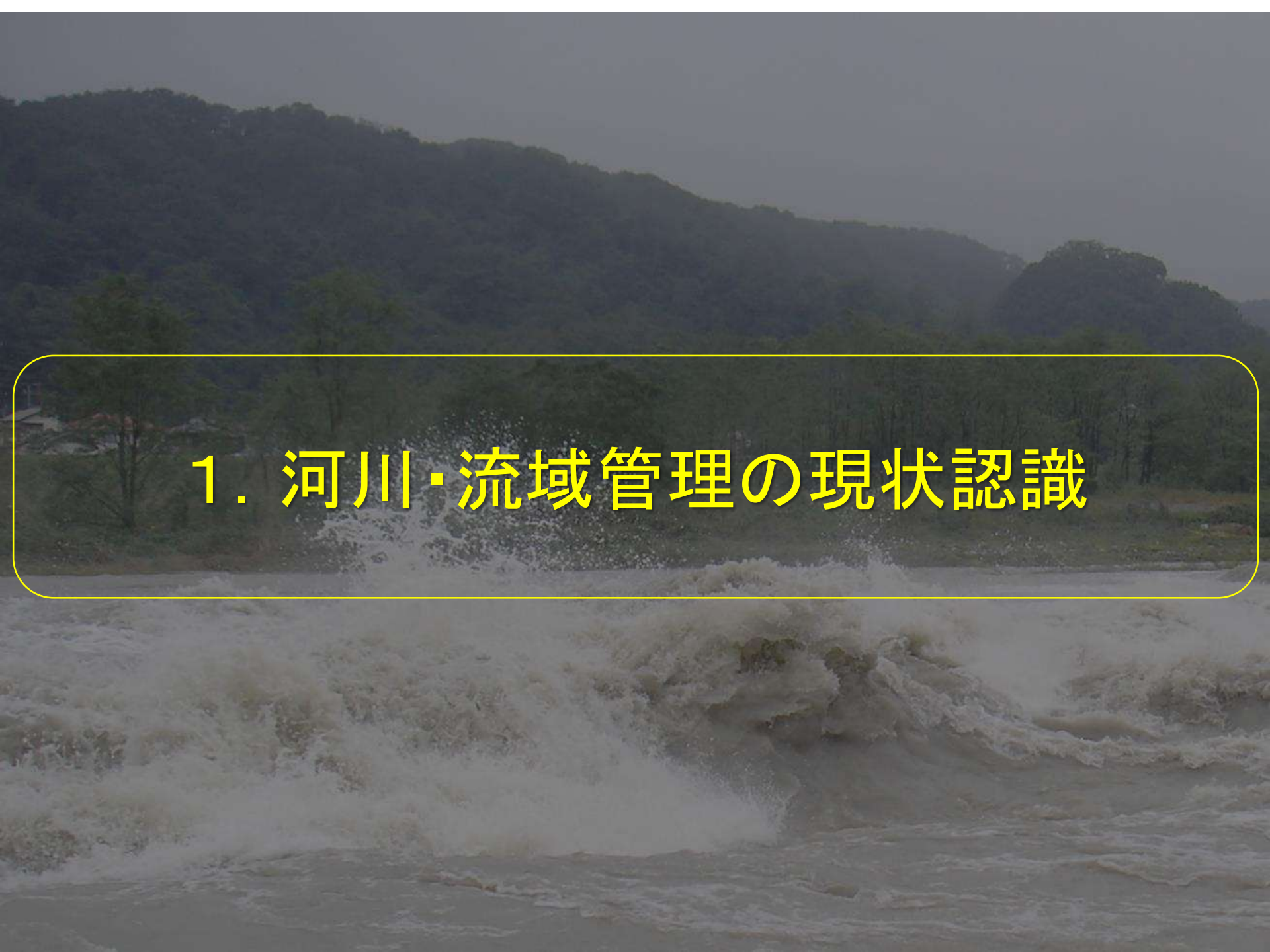


土木学会台風第19号災害総合調査団の 提言に見る流域治水



土木学会台風第19号災害総合調査団
幹事長 知花 武佳

A photograph of a river with white-water rapids in the foreground. In the background, there is a large, forested mountain under a grey, overcast sky. The image is used as a background for a presentation slide.

1. 河川・流域管理の現状認識



地域に根ざした治水・利水



放棄林



丘陵地開発



保水地域

耕作放棄



氾濫原集住



遊水地域

低地地域



氾濫リスクが認知しづらく，脆弱性が増加

人口減少・高齢化



水防・避難の弱体化

自助

地球温暖化



外力の増加

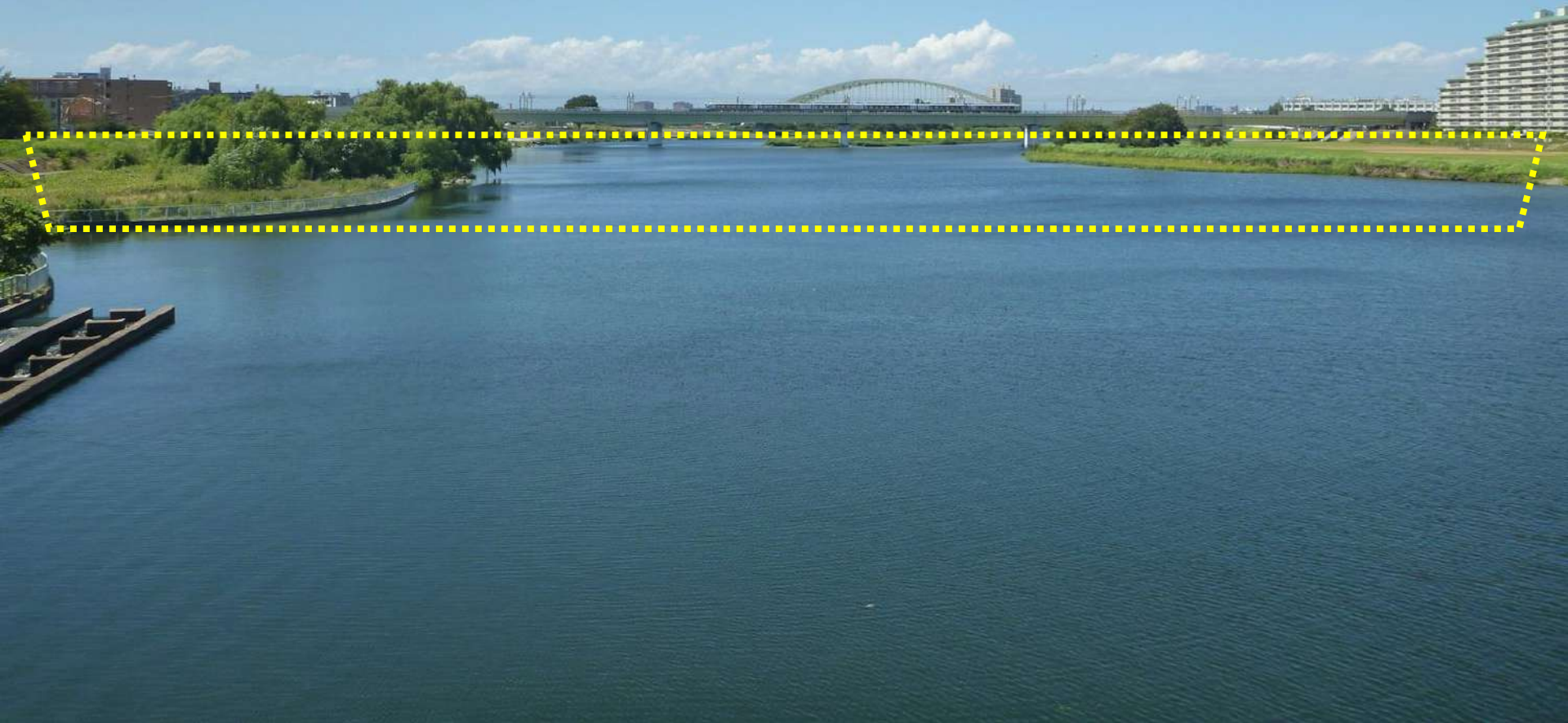
共助

公助

例：近所の人と言われて避難した。

例：防災無線が聞こえない！避難勧告が遅い！

このように脆弱な低地は、どれくらいの雨で溢れるか？
例えば、多摩川では、流域（1,240km²）全体に対し、
48時間（2日間）で、588mmというのが、想定される最
大の雨量であるとされ、これだけ降ったときの氾濫状況
がハザードマップに示されているが．．．



基本高水（のピーク流量）：多摩川上流では、年超過確率1/200（1年間にその規模を超える確率が1/200）

（流域全体に457mm/48hr）が降った場合に想定される流量のパターン（と最大値）。石原地点で**8,700m³/s**。

計画高水流量：基本高水流量の一部を、ダムや遊水地などの施設に貯めた後、河道で流せる目標とする流量。石原地点で**6,500m³/s**。（どこかで**2,200m³/s**減らす。）

計画高水位：最終的に、計画高水流量をこの高さ以下で流したいという目標水位。計画高水流量に合わせて目標水位を上下させるのではなく、川底を掘るなどしてこの水位以下に抑える。石原地点で**A.P33.34m T.P32.21m**。

河川整備計画における目標流量：当面の目標。多摩川の石原地点では昭和49年9月（狛江水害の時）の流量である**4,500m³/s**。（流域全体に330mm/48hr）

流域（集水域）：その内側に降った水が、
その川のある場所に集まる範囲。

氾濫域：その川の氾濫が及ぶ範囲。

利水域：その川の水を利用している範囲。

排水域：その川の水を利用した後の排水が流れる範囲。

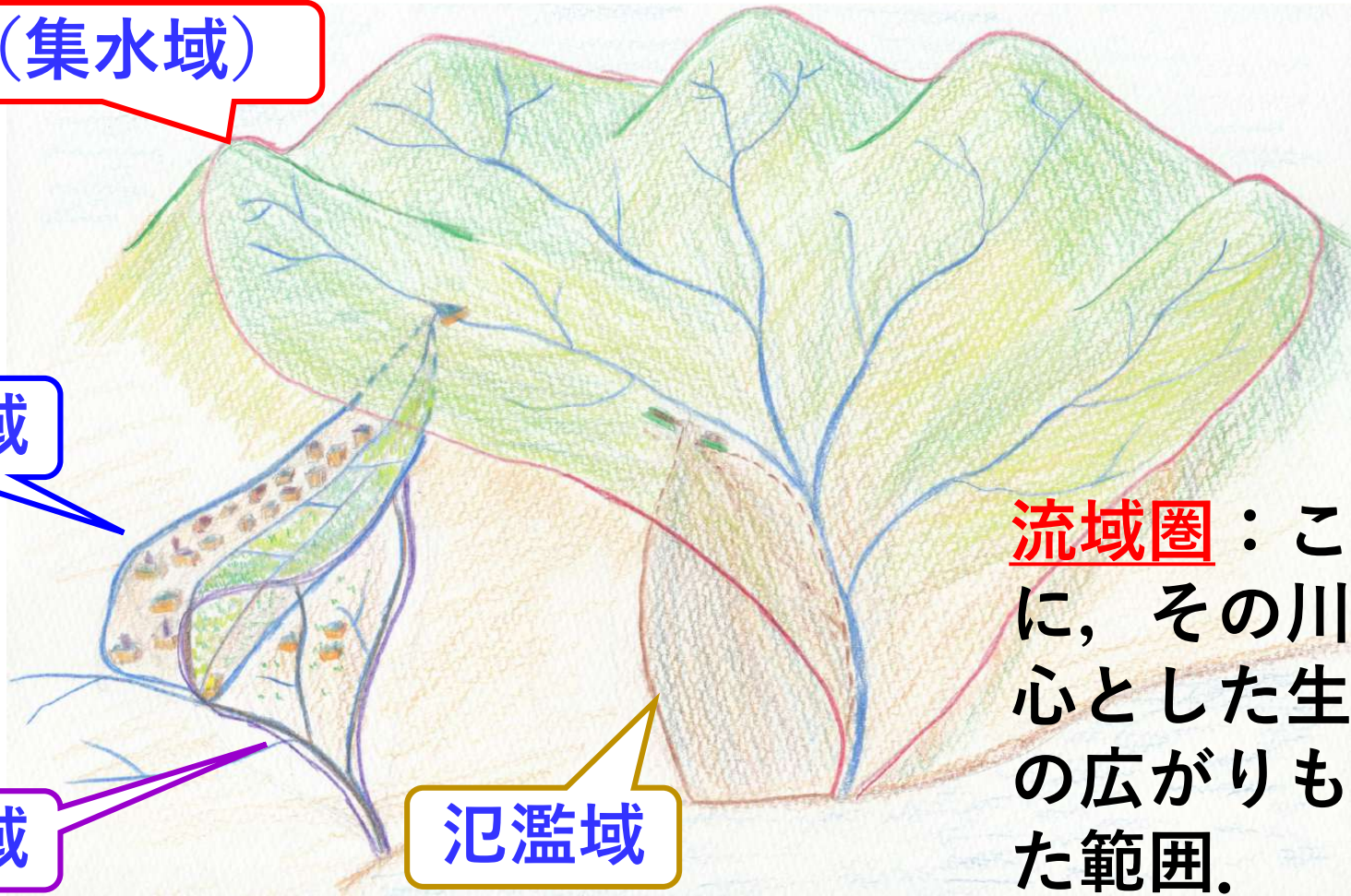
流域（集水域）

利水域

排水域

氾濫域

流域圏：これら
に、その川を中心とした生態系の
広がりも含めた範囲。



流域全体を俯瞰して土地利用の見直しを進め、それに基づく効果的かつ効率的な国土強靱化策を！

国、都道府県、市区町村、自治会等の地域コミュニティ、民間企業および国民の連携と役割分担を！

→大規模氾濫減災協議会

流域（集水域）

河川整備、氾濫を抑える対策、氾濫に備える地先・広域の水防、利便性・快適性と安全・安心のためのまちづくりや住まい方の改善を！

利水域

排水域

氾濫域

流域圏：これらに、その川を中心とした生態系の広がりも含めた範囲。

